

■平成22年度 経済環境委員会 所管事務調査報告

調査テーマ：環境に配慮した自治体づくり

【1】本市の取り組み状況

《これまでの主な経過》

平成 5年	地球環境保全都市宣言
平成 11年 3月	延岡市環境基本条例の制定
平成 13年 3月	環境基本計画を策定
平成 14年 3月	延岡市環境保全率先実行計画の策定
平成 16年 3月	ISO14001 の認証取得

《環境に配慮した自治体づくりのための施策》

(1) 「環境基本計画の見直し」

〈計画期間〉

平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 年

〈主な見直し内容〉

- ・合併に伴う市域拡大への対応
- ・生物多様性の保全
- ・地球温暖化防止

(2) 「自然環境の保全」

①自然環境モニタリング調査事業

… 公共工事等における自然環境配慮の基礎データや、市民が自然と触れ合える場の確保を目的に、動植物の生息状況等の把握と定期的な情報更新。

(調査分野：13 分野、調査員 21 名)

平成 22 年度：データ集及び報告書の発刊

平成 23 年度：動植物マップの作成

②定住自立圏協定に基づく取り組み

… 五ヶ瀬川流域の住民交流や生物多様性の回復・維持、森林再生を促進するための活動支援、研究等を目的とした森林創造計画の策定・推進。

③自然環境とのふれあい

- ・ハマボウ観察会 (中田川河口)
- ・塩沼地植物保護のための清掃活動 (妙見湾)
- ・小中学生対象の昆虫や魚類の観察会 (須美江)
- ・出前講座の実施や子どもエコクラブへの支援

(3) 「生活環境の保全」

①公共水域の水質保全

- ・合併浄化槽設置整備補助金制度 (平成 21 年度実績：74 基)

- ・水質検査（河川22地点、海域10地点で実施）
- ・水辺環境調査の実施（小中学生対象の水生生物調査）

②その他の生活環境保全

- ・騒音、振動、悪臭、ダイオキシン類などの測定
- ・公害防止協定の締結
- ・地下水汚染に伴う県とのモニタリング調査

③都市景観

- ・延岡市緑化美化推進条例の制定
- ・延岡市都市景観条例の制定

(4)「地球環境の保全」

①地球温暖化対策

- ・家庭用生ごみ処理機購入補助制度
- ・不法投棄防止に係る啓発活動
- ・延岡市環境保全率先実行計画に基づく温室効果ガス調査
 - 目標：総排出量を平成23年度までに基準年度である平成16、17年度の総排出量の平均より8%削減
 - 実績：二酸化炭素排出量は24899トンを、基準年度平均33,011トんに比べ、マイナス24.6%の削減（平成21年度）
- ・地球温暖化防止推進員の活動支援
- ・不法投棄防止の啓発を目的とした環境子ども会議の実施
- ・新消防庁舎の太陽光発電設備の設置
- ・下水道の消化ガスによる発電

②ISOにおける取り組み

- ・延岡市グリーン購入指針の策定
- ・オフィス活動等取組手順書の策定
- ・目的目標の設定
 - [設備整備]…公用車に低公害車を導入（H20年度現在90台）など
 - [省エネ対策]…アイドリングストップの励行など
 - [資源循環推進]…グリーン購入の定着化、廃プラスチック焼却量減など
 - [啓発]…学校における環境教育推進、エコドライブ講習など
 - [緑化推進]…グリーンカーテン設置、未植栽地の解消と広葉樹植樹など

(5)「環境保全活動」

市民、事業者、行政が一体となった協働の取り組みの実施

- ・アースデイやリバーフェスタへの参加促進
- ・クリーンアップ宮崎の推進
- ・環境保全功労者の推薦

【2】先進地視察調査

調査事項：「環境先進都市に向けた取り組みについて」

《杉並区（東京都）》 平成22年10月13日視察調査

人口 528,060人 面積 34.02 km²

(1) 取り組みの経過

杉並区では、21世紀を環境の世紀と考え、足元からの行動で、地球環境を持続可能なものとするために、各種計画を策定し取り組まれてきた。

平成15年2月 杉並区地域省エネルギービジョン
(杉並区における省エネルギー推進のための指針)

平成15年3月 杉並区環境基本計画

平成18年6月 杉並区地域省エネ行動計画

平成22年5月 杉並区環境基本計画改定

(2) 省エネ推進に関する各種取り組み

平成13年度～ 環境博覧会の開催

平成15年度～ 太陽光発電機器設置助成開始

平成20年度～ エコドライブ支援機器設置助成開始

省エネ何でも相談窓口開設、省エネ出前講座開始

平成21年度～ 高効率給湯器設置助成開始

(3) レジ袋削減・マイバッグ推進に関する取り組み

平成14年03月 区議会において「すぎなみ環境目的税条例」を可決

レジ袋1枚につき5円、施行時期は議会の同意を得ること

同年5月には杉並区レジ袋削減推進協議会が結成され、マイバッグキャンペーンや持参状況調査を実施

平成19年 1月 レジ袋有料化モデル実施（終了後も有料化）

平成20年 3月 「杉並区レジ袋有料化等の取組の推進に関する条例」制定
(同年4月施行)

平成21年 4月 杉並区商店会連合会からのレジ袋削減協力の申し出
条例対象外の杉並区商店会連合会、杉並区レジ袋削減推進協議会、杉並区で協定を結び、レジ袋を必要とする客から任意で3～5円の協力金を受け取り、区に寄附して地域の学校緑化に使う協定を締結

●マイバッグ持参率

H19年度…21.6%、H20年度…32.0%、H21年度…33.3%

(4) その他の取り組み

①緑のカーテン設置

区役所や小中学校、その他公共施設において実施。

(区役所正面に設置されたカーテンは、高さ30mで日本最大級)

②環境教育の推進

中学生環境サミットの開催や小学4年生を対象にした環境教育の実践

③まるごとエコスクール化

学校の建てかえに合わせ、太陽光発電・屋上緑化・地中熱利用などを実施

(5) 今後の課題等

①レジ袋削減

レジ袋有料化を実施しているスーパーでのマイバック持参率は80%程度であるが、条例対象事業所の大半を占めるコンビニでは、声かけ中心のため、マイバック持参率が30%に達していないため、今後は、事業者に対する要請・支援や、区民に対するさらなる環境意識啓発が必要。

②省エネ推進

- i) 新潟県中越地震の影響で原子力発電所が停止したことに伴い、東京湾岸の火力発電所により、電力を賄っているため、CO²排出係数が上昇し、前年度と同程度のエネルギー使用量であっても、より多くのCO²が発生している。

区のみでの対応で解決できない課題ではあるが、一層の省エネ、CO²削減に取り組む必要がある。

- ii) 改正省エネ法、東京都民の健康と安全を確保する環境に関する条例により、区が事業者として義務化された省エネルギー、温室効果ガス削減の実施を推進していく必要がある。

【3】まとめ

現在、国は、今日の環境問題について、日常生活や通常の事業活動から生ずる過大な環境負荷が原因であると分析し、その解決のため、大量生産・大量消費・大量廃棄型の現代社会のあり方そのものを持続可能なものへ変革していく方針であり、そのための廃棄物対策、公害規制、自然環境保全等の実施や、地球温暖化やリサイクル、森林・緑地・河川・湖沼の保全などに取り組んでいる。

そのような中、本市においては、現在、環境基本計画の見直しが行われ、今年度中に策定される予定となっており、合併に伴う市域拡大への対応、生物多様性の保全、地球温暖化防止の3点を主な柱に見直しが行われている。また、そのほかにも、本市では、定期的な各種モニタリング調査や、生活環境保全対策、延岡市環境保全率先実行計画やISOに基づく取り組みが実践されている状況にある。

本委員会としては、本市が地球環境保全都市として、今後さらに環境に配慮した自治体としての取り組みを進めていただくよう要望する。特に、環境問題の解決については、行政だけの力では解決できるものだけでなく、市民や事業所との協力が不可欠であることから、今後の施策推進に当たっては、そういった面での連携強化を一層努めていただきたい。

また、環境意識の底上げを図るには、子どもの頃からの意識づけも必要であることから、現在実施している学校における環境教育については、有効な手段の一つであると考えるので、今後とも教育委員会と連携を強化しながら、取り組みの拡大を図っていただくよう要望する。

調査テーマ：食を活かした観光振興

【1】本市の現状と取り組み状況

(1) 現状について

《本市の観光客数と宿泊者数》

	H18	H19	H20	H21
観光入込客数	1,062,000人	1,082,300人	1,095,700人	1,116,595人
宿泊者数	229,800人	237,600人	245,860人	221,608人

- ・ 合併により多彩な自然や豊かな物産が加わり、高いポテンシャルを有している。
- ・ 延岡観光協会の法人化（平成20年12月）と組織強化
 - …組織強化に係る職員増（4名）
 - 感動体験案内事業実施に係る職員増（3名）
 - 鮎やかな事業に係る職員増（4名）
- ・ 延岡市観光振興ビジョンの策定（平成21年3月）
 - …アクションプラン（22項目）の積極的推進
 - * グルメを活用した観光推進
 - * ブルー・グリーンツーリズム観光の推進
 - * 感動体験案内人の養成と新たな資源の発掘・活用
 - * トップセールスの推進
 - * 市民バスツアーの実施

(2) 今後の取り組み

本市には、県のさかなブランドに認定された「ひむか本サバ」をはじめ、豊かな物産があり、今後は、これらの充実とともに「食」の発掘に努めていく方針である。

また、延岡商工会議所においても、「延岡ずばなもん」の開発や「浦の恵丼」「海賊丼」などの新鮮な海産物を生かした特産品の開発が行われている。

① グルメを活用した観光の推進

1) 酒蔵のまちづくり

… 三蔵（清酒・ビール・焼酎）を活用したバスツアーの開発誘致

2) ご当地グルメの開発

… 「チキン南蛮発祥のまち延岡」の情報発信

② 物産の振興

- ・ 「ひむか本サバ」「空飛ぶ新玉ネギ」「次郎柿」「やぶれまんじゅう」などの活用
- ・ 道の駅「北川はゆま」アンテナショップでのチョウザメや鹿肉加工品紹介や新商品開発

③ 「食」を活かした広域観光

- ・ 「東九州伊勢えび海道」の充実と事業の拡大
- ・ 日豊海岸の新鮮な食材や豊かな自然を活かした「新たな海道」設置と通年型観光ルートづくり
- ・ 「伝統鮎やかな」を活用した観光客誘致

(3) 今後の取り組みに関する主な事業内容

①チキン南蛮発祥のまち延岡情報発信

- ◆情報発信に取り組む市民団体 NAN BAN TRY の活動を延岡観光協会と協力し、積極的に支援。
- ◆チキン南蛮が、宮崎観光遺産として県の認定を受けていることに伴う情報提供やデータ・展示物等の提供などの積極的協力。
- ◆各メディアからの取材に対する情報・データ提供、取材協力。
- ◆チキン南蛮マップやチキなん番長オリジナルグッズを使った県外での延岡観光PR活動。

②東九州伊勢えび海道

◇事業費 3,120 千円 (各観光協会 800 千円×2、参加店 1,520 千円)

◇加入料理店 30 店 (延岡 9 店、佐伯 21 店)

◇実績 (単位：食)

	延 岡	佐 伯	合 計
H16 年度	1,243	5,479	6,722
H17 年度	3,129	6,998	10,127
H18 年度	3,687	6,564	10,251
H19 年度	3,963	8,217	12,180
H20 年度	4,949	7,680	12,629
H21 年度	4,847	7,370	12,217
合 計	21,818	42,308	64,126

※H21 年度 12,217 食のうち、3,501 食は宿泊を伴うもの。

※H21 年度の食事・宿泊・土産等からなる経済効果は、約 122,000 千円

③北浦ブルーツーリズム

◇事業の柱

*家族で漁業体験、塩づくり体験等が楽しめる 1 泊 2 日の観光商品をつくり、モニターツアーを開催し、アンケート調査等により利用者のニーズを把握して今後のツーリズム商品開発につなげる。

*事業実施を通じ、漁協関係者や地域住民との連携を深め、観光客受入態勢づくりを行いながら事業推進する。

◇平成 21 年度事業実績

日 程：平成 21 年 10 月～11 月中に 3 回開催 (各回 1 泊 2 日)

場 所：北浦町浜木綿村周辺

料 金：大人 9,500 円 子供 8,500 円 (1 泊 2 食、体験料込)

参加者：74 名 (大人 50 名、子供 24 名)

④地場産品を活用した地域特産品の試作と開発

事業エリアで獲れる海産物の消費拡大を目指し、地どれの長所 (新鮮・安全) を活かしながら原価の設定や盛り付けの工夫のほか、市場ニーズに適合した商品性の高い料理開発に取り組んだ結果、「海賊丼」「浦の恵丼」「土々呂ちりめん弁当」「ぎよはん汁」の 4 種類が開発された。

⑤チョウザメ等北川産品ブランド化事業

- ◇目的：北川町の天然素材等を活用した新商品開発・販路拡大による地場産業振興及び雇用の創出
- ◇内容：1) チョウザメ、ウナギ、鹿肉等を活用した新商品開発
2) 新商品の販路拡大と確保
3) 食品加工業の連絡強化による商品開発の加速化
- ◇主体：北川町商工会

【2】本委員会における先進地視察調査

調査事項：「食と農の資源循環型社会づくりについて」

≪新発田市（新潟県）≫ 平成22年10月14日視察調査

人口 102,966人 面積 532.82 km²

(1) 「食の循環によるまちづくり条例及び推進計画」策定までの経緯

- ・分野を横断的に取り組む3つの重点課題を設定（平成15年度）
 - *食と農の資源循環型社会づくり（農）
 - *健康しばた21めざせ100彩（健康）
 - *ニューフロンティア21新発田人づくり（教育）
- ・新発田市食の循環によるまちづくり条例（平成21年1月施行）
- ・新発田市食の循環によるまちづくり推進計画（平成21年12月策定）

(2) 新発田市食の循環によるまちづくり条例

7つの基本方針（第3条）と5つの基本的施策（第8条～第12条）により構成され、その推進のために、市民・事業者・行政の役割（第4条～第6条）も示されている。

(3) 新発田市食の循環によるまちづくり推進計画

- ①産業の発展（9事務事業…23事業）
 - *農産物加工品マッチング事業
 - *学校給食地産地消導入事業 など
- ②健康及び生きがいの増進（13事務事業…27事業）
 - *めざせ100彩健康づくり推進事業
 - *保健自治会支援事業 など
- ③教育及び伝承（9事務事業…23事業）
 - *食とみどりの新発田っ子プラン推進事業
 - *子ども道学堂推進事業 など
- ④環境の保全（6事務事業…17事業）
 - *食の循環もったいない推進事業
 - *学校給食食のリサイクル推進事業 など
- ⑤観光及び交流（14事業…22事業）
 - *健康づくりの郷事業
 - *城下町しばた全国雑煮合戦開催企画事業 など

各項目において、食の循環における各段階のめざす姿に対する達成度を評価し、「食の循環によるまちづくり推進委員会」、「食の循環によるまちづくり連絡調整会議」で進行管理。

***食の循環によるまちづくり推進委員会**

… 市民・事業者・行政により構成

市が事業委託（予算約300万円）、内容は食の循環に関する啓発事業実施

<具体的な事業内容>

*食の循環による、まちづくり・しばたリレートークの開催

*食の循環大使・応援団制度の立ち上げと活用（大使に俳優を起用）

*食の循環によるまちづくりのロゴマーク・キャラクターの活用

*食の循環しばたモットイナイ運動の推進

***食の循環によるまちづくり連絡調整会議**

… 庁内関係部課職員により構成

i) 市民・事業者及び市の協働における、食の循環によるまちづくりに関する施策の実効性ある推進を図る

ii) 各施策推進のための庁内横連携の強化を図る

(4) 今後の課題等

- ① 行政だけの取り組みでは限界があるため、市民・事業者の意識向上と実践（行動してもらう）ことが重要。
- ② 食に関する市職員の意識がまだ低い。職員一人ひとりが地域人となって取り組んでいくことが必要。

【3】まとめ

本市においては、昨年度、延岡市観光振興ビジョンが策定され、その中で、グルメを活用した観光推進が盛り込まれ、今年度は、本市発祥の料理であるチキン南蛮を武器に、九州B-1グランプリに初参加するなど、官民が協力した地域おこしへの取り組みが進められている。また、このほかにも、「酒蔵のまちづくり」への取り組みや、「東九州伊勢えび海道」の開催、「伝統漁船やな」の活用、ブルーツーリズム事業、地場産品を活用した地域特産品の開発に取り組むなど、食を活かした観光振興について、さまざまな仕掛けが行われているところである。

現在、人々の「食」に対する関心は高く、テレビ・雑誌などによるグルメ情報の発信、また、B-1グランプリ開催などによる影響も大きいことから、本委員会としては、現在の取り組みを着実に進め、食を活かした観光振興を推進していただくよう要望する。

なお、推進に当たっては、情報発信を効果的に使うことが必要であり、その効果が最大限に発揮されるよう、本市出身のメディア関係者を活用した情報発信の活用や、今後整備が進められる延岡駅周辺整備事業にあっては、観光客が本市の食の情報に関する情報を簡単に分かりやすく入手できるような案内表示システムの整備についても研究していただきたい。

また、新商品開発については、できるだけ地元食材を活用したもので、本市に来なければ絶対食べられないと言われるようなものにしていただくことと合わせ、その商品を市民にも広く知ってもらうことが大切であることから、その推進についても取り組んでいただくよう要望する。